

## 決 議

山陰近畿自動車道は、京都縦貫自動車道、北近畿豊岡自動車道、鳥取自動車道、山陰自動車道と連結し、日本海国土軸を形成する道路であり、地方創生及び国土強靱化の実現に欠かせない重要な幹線道路である。

丹後地域においては、京都縦貫自動車道の全線開通、山陰近畿自動車道の延伸により、観光客の増加や新たな企業進出など高速道路の整備による多大なストック効果が表れている。

こうした効果を更に高め、都市と地方の新たな結びつきや人の往来の円滑化を進めることで、人口規模が縮小しても経済的に成長し、社会を機能させる地方創生2・0を最大限、加速前進させていくためにも、ミッシングリンクである山陰近畿自動車道の早期全線整備が不可欠である。にもかかわらず、現状、全線整備の期的な目途が示されておらず、まちづくりの長期展望を十分に得ていく上でも隘路となっている。

こうした中、山陰近畿自動車道の整備加速化のため、一部利用者負担を甘受し令和七年度から料金徴収が始まったところであり、有料事業計画に即した計画的かつ着実な整備推進と併せて先線のルートを最大限、早期に決定していく必要がある。

また、早期全線整備にあたっては、資材価格の高騰や賃金水準の上昇に対応する中でも必要な道路整備・管理が長期安定的に進められるよう、次の事項を強く要望する。

なお、早期全線開通と併せて、今後の交通量の推移を踏まえた四車線化、大宮地域から網野方面への出入口の新設についても強くお願いする。

- 一、大宮峰山インターチェンジから府県境までの全線を令和十年代に完成するよう具体的な整備の年次計画を立てて时期的な目途を明らかにするとともに、その早期全線整備を図ること
- 一、網野インターチェンジから府県境までの区間について、地域の意見を踏まえ、できるだけ早期にルートを確定し、全線の都市計画決定を行うこと
- 一、大宮峰山インターチェンジから網野インターチェンジまでの区間について、事業化の前倒しとなる文化財調査を令和七年度から開始し、令和八年度には事業化すること
- 一、大宮峰山道路及びアクセス道路の事業が有料事業計画に基づき、令和八年度までには完成するよう必要な予算措置を行うこと
- 一、第一次国土強靱化実施中期計画について、今後五年間でおおむね二十兆円強程度を目途とする事業規模で策定されたところであるが、必要な予算・財源を通常予算とは別枠で満額確保すること
- 一、国土強靱化関係予算については、予算編成過程でも資材価格等の高騰等の影響を適切に反映し、必要な予算を満額確保すること
- 一、防災や地方創生など、B/Cだけでは測れない効果も踏まえ、交通量の多寡によらない多様な観点も含めて事業の必要性を適切に評価する仕組みを構築すること
- 一、直轄権限代行や頻発する大規模自然災害等に対応するための地方整備局等の体制強化や必要となる資機材の更なる確保に取り組むこと

以上、決議とする。

令和七年九月二三日

丹後・地域高規格道路推進協議会